

三原市人権文化センターだより

新春！

発行/三原市人権推進課 編集/三原市人権文化センター
住所/三原市長谷1-6-1 電話/0848-66-1111

ふれあいコンサート

～心のふれあいは密にして～

無観客で開催します。

～新型コロナウイルス感染拡大防止のため～

なお、開催の様子をデジタル文化祭
ホームページで2月1日公開します。

によっては、延期・中止となる可能性があります。あらかじめご了承ください。

～人権啓発パネル展(本郷生涯学習センター)～

ゆきちゃんが見た ピカドン

期 間 1月16日(土)～24日(日)
時 間 9:00～21:00
場 所 本郷生涯学習センター(本郷南6丁目25-1)
入 場 無料
主 催 本郷人権文化センター

うら面に詳しく掲載しています。ぜひご覧ください！

デジタル文化祭、いよいよ来月開催！

三原・本郷・大和の各人権文化センター所属の約30グループ参加による「デジタル文化祭」がいよいよ来月開催されます。公開開始は2月1日で、三原市人権推進課のホームページ上でご覧になれます。

演奏、合唱、太極拳、料理そして絵手紙・書道といった芸術作品など、ジャンルは多岐にわたり、見ごたえ十分です。一人でも多くの方に見ていただきたいと思います！

来月号で詳しくご案内します。ご期待ください。

人権相談

人権相談員が相談をお受けします。
相談は無料で、秘密は守られます。
お気軽にご相談ください。

- ◇ とき 土・日・祝日を除く10時～16時
- ◇ ところ 三原市人権文化センター
- ◇ 電話 0848-66-1111



■ 人権文化センター略図



【裏面にも記事があります】

～ 人権ひろば ～

ゆきちゃんが見た ピカドン

～伝えていくこと、そして繰り返さないために～

●パネル展を開催します

令和3年1月16日(土)～24日(日)の期間、本郷生涯学習センターで
人権啓発パネル展「ゆきちゃんが見た ピカドン」を開催します。

原作者の森本マリアさんは、8月6日の原爆投下時に爆心地から
15km離れた広島市安佐北区三入(みいり)で原爆を体験しています。

あの日から75年が経過し、自ら原爆を体験し、原爆を語れる人が少なくなっていることに、森本さんはとても強い危機感を抱いておられます。

今回のパネル展では、原爆の悲劇を伝え、永遠の平和を願う森本さんの気持ちが強く込められています。被爆を体験し、伝えていこうとされている森本さんの「想い」のバトンをつないでいくことこそが、私たちの使命ではないでしょうか。

一人でも多くの方達が、パネル展に足を運んでいただけることを心から願っています。



●作者からのメッセージ ～ゆきちゃんが見た ピカドン(吉備人出版発行) あとがきより～

ねん がつ か げつ こぜん じ ふん ひろしま げんしばくだん お とき わたし さい
1945年8月6日(月)午前8時15分 広島へ原子爆弾が落ちた時、私は11歳でした。

いま さい こ げんしばくだん お とき てんち かえ
今はもう81歳を越えてしまいました。原子爆弾が落ちた時は、天地がひっくり返ったほどの
しょうげき ひろしましあさきたくみいり ばくしんち ちよくせん ほくとう やく ところ
衝撃でした。広島市安佐北区三入は、爆心地から直線で北東に約15キロの所にあります。

ねん とき す ちいき げんばく かた ひと すく
あれから70年の時が過ぎて、この地域での原爆を語れる人が少なくなりました。

わたし きおく うす うす きおく みじか か
私の記憶も薄れています。薄れつつある記憶をたどりながら短く書きました。

きゅうひろしましきんこう こくみんがっこう げんばく かたがた きゅうこしょ
旧広島市近郊の国民学校は、原爆でけがをされた方々の救護所になりました。

ほうしゃのうおせん せかい ねが
放射能汚染のない世界でありますように願いをこめて。

2015年4月 森本マリア

なん

★きょうは何の日? ～1月 人権カレンダー～

今月から、1年間にわたって人権に関するさまざまな出来事、記念日などを紹介していきます。皆さんにより幅広く、そして深く知ってもらいたいので、紹介文とともに「検索ワード」をあわせて掲載します。お持ちのスマホやパソコンでさらに詳しく調べてみていただければ嬉しいです。

※1月24日 法律扶助の日 ➡検索ワード 「法律扶助制度」「日本弁護士連合会」

1952(昭和27)年のこの日、日本弁護士連合会により法律扶助協会が設立されたことに由来しています。この日を中心に全国の弁護士事務所などで無料の法律相談が実施されます。

※1月31日 世界ハンセン病の日 ➡検索ワード 「らい予防法」「ハンセン病療養所」

弁護士であり詩人でもあったフランス人の社会活動家、故ラウル・フォレロー氏によって提唱され、毎年1月の最終日曜日が記念日とされています。日本においてハンセン病患者の方たちは「親や兄弟姉妹と一緒に暮らすことができない」「一生療養所から出られない」といった生活を、長い間強いられてきました。このような悲しい歴史を踏まえ、ハンセン病について正しい知識と理解を持つことが大切です。